

令和4年度
生駒北中学校
学校評価

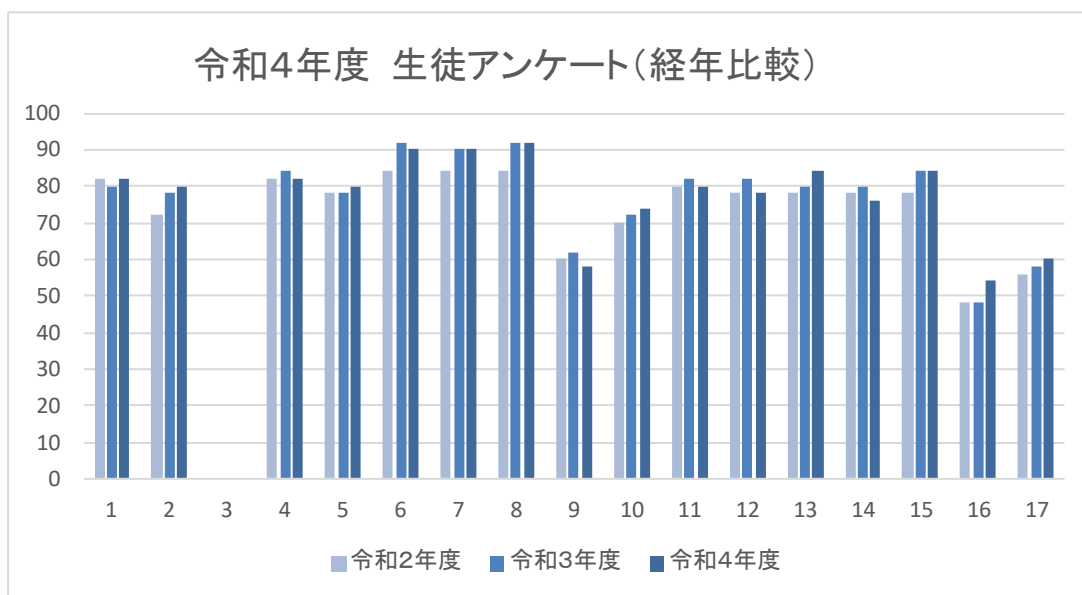


生徒アンケート考察

令和4年度 学習状況と生活状況の自己評価（生徒用）

・経年変化（R2～R4）の数值は、観点指標をそれぞれ A：当てはまる（5点） B：どちらかといえば当てはまる（4点） C：どちらともいえない（3点） D：あまり当てはまらない（2点） E：当てはまらない（1点）とし、それぞれの観点項目の平均値を百分率で示しています。

| No | 観 点 | 学年比較 | | | 経年比較 | | |
|----|--|------|----|----|------|----|----|
| | | 1年 | 2年 | 3年 | R2 | R3 | R4 |
| 1 | あなたは、学校は楽しいですか。 | 80 | 82 | 82 | 82 | 80 | 82 |
| 2 | あなたは、授業内容を理解できていますか。 | 82 | 78 | 78 | 72 | 78 | 80 |
| 3 | あなたは、体験学習（茶釜づくり体験・職場体験・こども園との交流学习等）の時間が楽しいですか。 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 4 | あなたには、自分の悩み等を相談できる友人がいますか。 | 82 | 84 | 82 | 82 | 84 | 82 |
| 5 | あなたには、自分の悩み等を聞いてくれる先生がいますか。 | 78 | 76 | 84 | 78 | 78 | 80 |
| 6 | あなたは、学校で命の大切さや人権について学ぶ機会がありましたか。 | 90 | 88 | 90 | 84 | 92 | 90 |
| 7 | あなたは、学校で社会のルールや自己責任について学ぶ機会がありましたか。 | 92 | 88 | 90 | 84 | 90 | 90 |
| 8 | あなたは、学校で将来の進路や生き方について考える時間がありましたか。 | 94 | 90 | 92 | 84 | 92 | 92 |
| 9 | あなたは、授業中に進んで発表しましたか。 | 58 | 54 | 62 | 60 | 62 | 58 |
| 10 | あなたは、家庭学習をしますか。 | 74 | 74 | 74 | 70 | 72 | 74 |
| 11 | あなたは、部活動、生徒会活動または委員会活動に積極的に取り組んでいますか。 | 90 | 68 | 80 | 80 | 82 | 80 |
| 12 | あなたは、学校行事に意欲的に参加していますか。 | 88 | 68 | 78 | 78 | 82 | 78 |
| 13 | あなたは、誰に対してもよく挨拶をしていますか。 | 84 | 82 | 84 | 78 | 80 | 84 |
| 14 | あなたは、清掃活動に熱心に取り組んでいましたか。 | 78 | 68 | 80 | 78 | 80 | 76 |
| 15 | あなたは、安全面（防犯や災害）に気をつけて生活していますか。 | 90 | 78 | 84 | 78 | 84 | 84 |
| 16 | あなたは、図書室を積極的に利用しましたか。 | 58 | 54 | 50 | 48 | 48 | 54 |
| 17 | あなたは、読書をよくしましたか。 | 64 | 58 | 56 | 56 | 58 | 60 |



令和2年度から令和4年度のまでの3年間は、新型コロナウイルス感染症との対峙から始まり、共生（With コロナ）へと続いた3年間でした。そんな中、本年度はさらに「学びを止めない」ために、感染症対策を施しながらの学校行事の復活やICTを活用した授業作りの推進など、着実に前進をした1年であったと思われます。まだまだ予断は許されない状況ではありますが、来年度はコロナが5類感染症に移行していこうという状況の中で、本アンケートの結果を総括し、来年度の教育活動に、有効に活かされるようにしたいと考えています。

観点1「あなたは、学校が楽しいですか。」

現3年生は、コロナ禍の影響を一番に受けた世代でありましたが、部活動、さまざまな学校行事の制限がかかるなかで、前向きに生活をし、今できることに懸命に取り組むことができました。修学旅行、文化発表会でのエイサーや体育大会でのソーラン節など、学校のリーダーとして充実した活動に取り組むことができました。

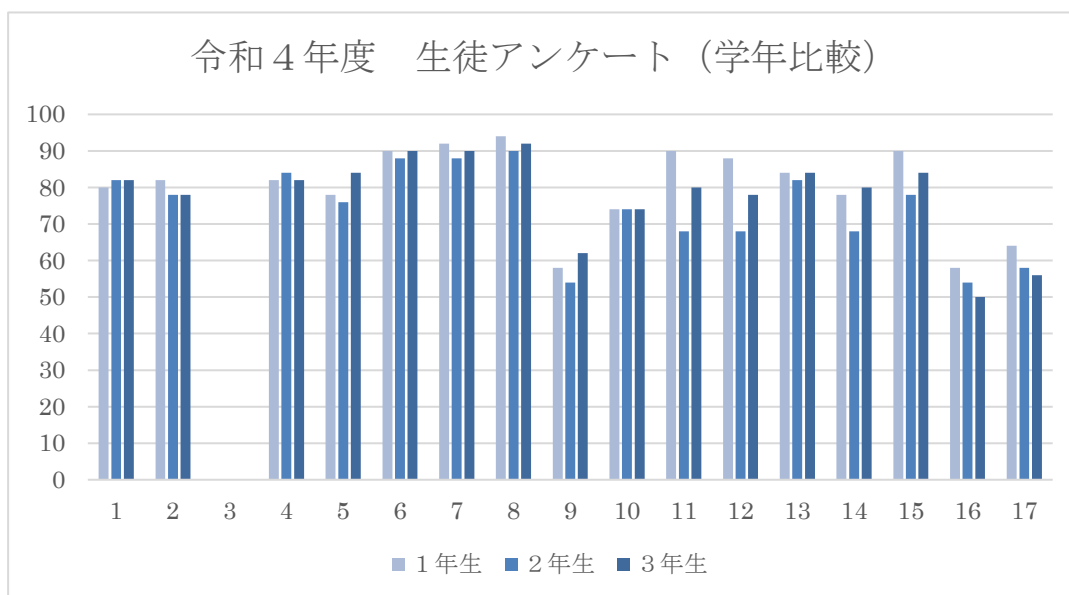
観点2「あなたは、授業内容を理解できていますか。」

この2年間で着実に伸びている項目です。コロナ禍の中で、ICTを活かした授業が一気に推進されました。教師もICTに関する研修や情報共有に取り組み、より学力に直結する有効な授業実践につなげることができています。また、以前から取り組んでいた「学びタイム」や学力補充などの地道な取組も授業内容の理解につながっていると考えられます。

観点5「あなたには、自分の悩み等を聞いてくれる先生がいますか」

数値としては例年並みですが、悩みがある生徒については担任だけでなく、学年全体で、あるいはスクールカウンセラーを含めて対応をしています。観点4の「友人」も含め、大切なのは相談できる窓口をひとつでも多く持つことだということを念頭に対処を継続していきたいと考えています。

観点6・7・8「学ぶ機会」についてもコロナ禍の状況であっても、各学年ともに工夫を凝らし、実施をすることができました。全校での「人権学習会」、3年生の福祉実践教室、2年生の職業体験学習も実際の企業店舗等にお伺いしての活動はできていませんが、さまざまな業種よりゲストティーチャーをお招きしての講話、1年生も茶筌作り体験や先端大学理科特別授業、2年生同様にゲストティーチャー講話を実施し、多くの学びを得た貴重な場となりました。



観点10「あなたは、授業中に進んで発表しましたか」

これについては、若干数値が下がっていますが、生徒一人一台タブレット端末を使用し、これまでの授業形態との変化していることも影響があるかもしれませんので、検証をしていきたいと思えます。

観点10・13「家庭学習」「挨拶」

これについては数値が伸びています。学校においてもこれらの大切さは、日々の学校生活や学年通信などを通して発信をしておりますが、やはり御家庭の力が大きいと感謝しております。引き続き、御協力をよろしくお願いいたします。

観点16・17「図書室利用」「読書習慣」

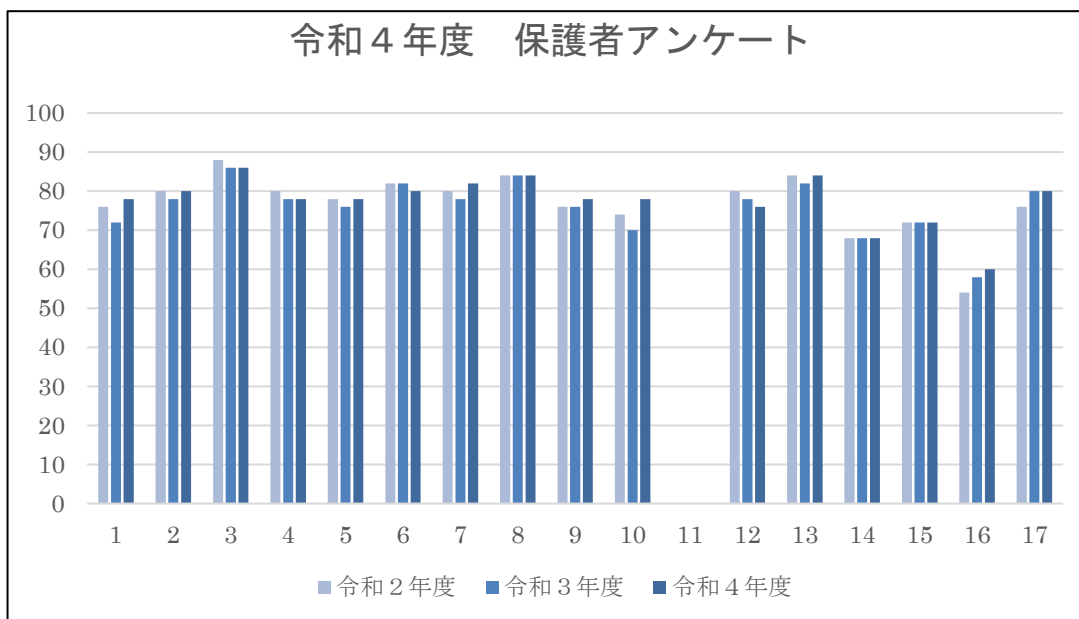
これらについては、昨年度の課題として上がっていますが、ここ2年で改善が見られます。図書館司書、国語科が一体となり、図書便りの発行や新聞コラムを読み取り読解力を高める活動ビブリオバトルや百人一首大会の実施、朝の読書活動、地域よりの多数の書籍の寄付など本に親しむ環境が醸成されてきていることが影響をしていると考えられます。新学習指導要領にも「言語能力の確実な育成」が挙げられており、今後もさらに図書室の活発な利用や読書活動を推進していきたいと思えます。

保護者アンケート考察

令和4年度 保護者アンケート

・経年変化(R1～R3)の数値は、観点指標をそれぞれ A:当てはまる(5点) B:どちらかといえば当てはまる(4点) C:どちらともいえない(3点) D:あまり当てはまらない(2点) E:当てはまらない(1点)とし、それぞれの観点項目の平均値を百分率で示しています。

| No | 観 点 | 経年比較 | | |
|----|---|------|----|----|
| | | R2 | R3 | R4 |
| 1 | 学校は、教育方針等を分かりやすく伝えている。 | 76 | 72 | 78 |
| 2 | 学校は、子どもや保護者の願いに応えようとしている。 | 80 | 78 | 80 |
| 3 | 学校は、子どもの安全指導に努めている。 | 88 | 86 | 86 |
| 4 | 学校は、家庭との連絡をきめ細かく行っている。 | 80 | 78 | 78 |
| 5 | 学校は、子どもの悩みや相談について適切に関わってくれる。 | 78 | 76 | 78 |
| 6 | 学校は、子どもの間違った行動を適切に指導するなど、社会のルールを守る態度を育てている。 | 82 | 82 | 80 |
| 7 | 学校は、人権や命を大切にする取組を行っている。 | 80 | 78 | 82 |
| 8 | 学校は、環境美化や環境整備に努めている。 | 84 | 84 | 84 |
| 9 | 先生は、楽しく分かりやすい授業をしている。 | 76 | 76 | 78 |
| 10 | 学校行事等では、充実した活動が行われている。 | 74 | 70 | 78 |
| 11 | 保護者会の時期や回数は適当である。 | 0 | 0 | 0 |
| 12 | 子どもは、学校に行くのが楽しいと言っている。 | 80 | 78 | 76 |
| 13 | 子どもは、生徒会活動、学校行事や部活動に積極的に参加している。 | 84 | 82 | 84 |
| 14 | 子どもは、家庭でもよく学習している。 | 68 | 68 | 68 |
| 15 | 子どもは、学校での出来事等の話をよくする。 | 72 | 72 | 72 |
| 16 | 子どもは、よく読書をしている。 | 54 | 58 | 60 |
| 17 | 子どものスマホやインターネット等の使用には、家庭のルールを設けている。 | 76 | 80 | 80 |



観点1「学校は、教育方針等を分かりやすく伝えている。」については、学年・学校だより等の紙面による定期的なお知らせの他、学校ホームページ等においてさまざまな情報の提供に努めています。

観点8「学校は環境美化や環境整備に努めている」については、育友会を始め、多くの地域の方々に支えられ、環境美化や整備を進めていくことができました。昨年度は新型コロナウイルス感染症対策として空気清浄機を今年度は校旗新調や体育大会演技用衣装新調などを実現することができました。また、地域除草作業でも多くのボランティアの方々のお力でより良い教育環境を生み出すことができました。今後も生徒たちにとって安心安全な環境を整えていきたいと考えています。

観点17「子どものスマホやインターネット等の使用については家庭のルールを設けている」については子供のスマートフォン・携帯電話の所有率が高くなり、家庭でスマートフォンを使用する時間が増えていることを多くの保護者から聞く中で、本年もそれらに関わる大きなトラブルもなく過ごすことができました。現在は御家庭のスマホなどに加え、タブレット端末が小学校1年生から中学校3年生までの児童生徒に一人1台貸与されました。今後も保護者の方の協力を得ながらルール作りや、情報モラル教育の充実が必要不可欠と感じています。

観点14「子どもは、家庭でもよく学習している。」は生徒アンケートでも触れましたが、まだまだ改善の余地のある数値となっています。読書量は語彙力にも直結し、理解力や表現力へとつながります。中学生にとって家庭学習の習慣化は学力の向上に欠かせないものです。保護者の方の協力を得ながら、これらの時間確保に力を注いでいきたいと思えます。

今後も、懇談会や学年・学校だより、学校HPの内容の充実に努め、学校の取り組みや生徒の様子について、保護者の方々にも十分にご理解いただけるよう積極的に情報の発信を行っていき、学校への理解と協力を深めていけるよう努めます。

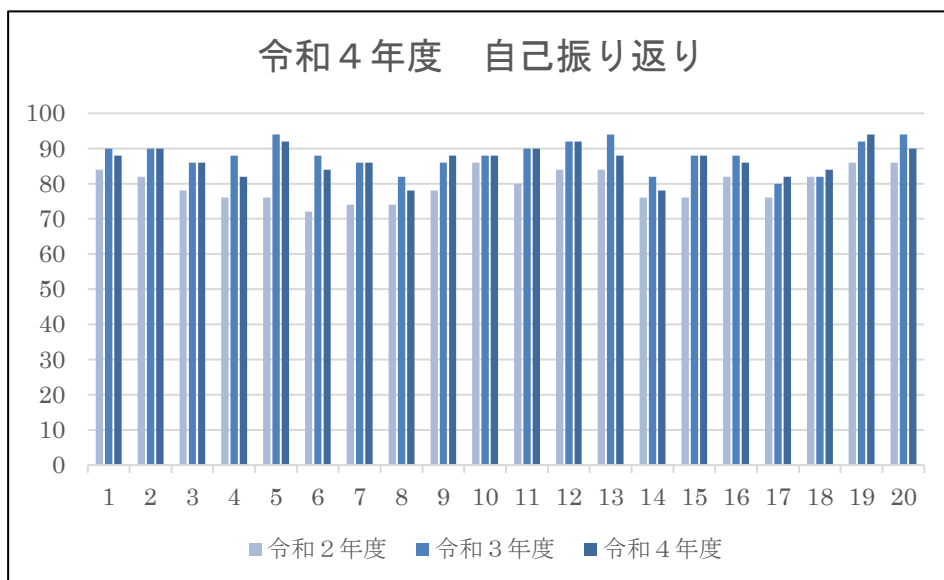
なお、観点11については、今年度も新型コロナウイルス感染症感染拡大の防止のため、保護者会等最小限の開催でしたのでアンケートは行っておりません。

教職員アンケート考察

令和4年度 自己振り返り

・経年変化(R1~R3)の数値は、観点指標をそれぞれ A:当てはまる(5点) B:どちらかといえば当てはまる(4点) C:どちらともいえない(3点) D:あまり当てはまらない(2点) E:当てはまらない(1点)とし、それぞれの観点項目の平均値を百分率で示しています。

| 観点項目 | No | 観 点 | 経年比較 | | |
|------|---------------------------------------|--|------|----|----|
| | | | R2 | R3 | R4 |
| 教育全般 | 1 | 学校教育目標は、生徒や地域の実態を踏まえたものとなっている。 | 84 | 90 | 88 |
| | 2 | 学校教育目標の達成に向けて、教育課程が編成され年間指導計画に基づいて指導が行われている。 | 82 | 90 | 90 |
| 基本方針 | 3 | 自ら考え行動し、未来を切り開く生徒の育成を目指した教育を推進している。 | 78 | 86 | 86 |
| 努力目標 | (1) 自ら学ぶ意欲と態度を培う学習指導を推進する。(知) | | | | |
| | 4 | 基礎・基本的な学習内容の定着を図り、楽しい授業を展開している。 (授業力向上への取組) | 76 | 88 | 82 |
| | 5 | 生徒の実態を的確に把握し、可能性を伸ばす指導に努めている。 (少人数指導・放課後自習教室等の推進) | 76 | 94 | 92 |
| | 6 | 体験的な学習・問題解決的な学習を取り入れ、主体的な学習活動を通して自ら学ぶ意欲と態度を育成している。 (体験学習・体験活動の充実) | 72 | 88 | 84 |
| | 7 | 学習過程での評価を通して、生徒の学習状況を把握し、その成果を学習指導に生かしている。 (指導と評価の一体化) | 74 | 86 | 86 |
| | (2) 豊かな心を育てる道徳教育・生徒指導を推進する。(徳) | | | | |
| | 8 | 教育活動全般を通して、実践力の伴う道徳教育を展開している。 (規範意識の育成) | 74 | 82 | 78 |
| | 9 | あらゆる差別を許さない人権教育を展開している。 (なかまづくりを中心とした学校づくり) | 78 | 86 | 88 |
| | 10 | 望ましい生活習慣を身につけさせている。 (生徒指導の充実) | 86 | 88 | 88 |
| | 11 | 心の教育を推進している。 | 80 | 90 | 90 |
| | 12 | カウンセリングマインドを基本に、未然防止の生徒指導に努めている。 (二者面談等の実施) | 84 | 92 | 92 |
| | (3) 健康な体とたくましい体力づくりを推進する。(体) | | | | |
| | 13 | 生徒の健康の現状を把握し、疾病の予防と健康で安全な生活を営む習慣や態度を培っている。 (保健指導の充実) | 84 | 94 | 88 |
| | 14 | 体育の授業だけでなく、進んで運動に親しみ、スポーツの楽しさと併せて体力の向上に努めている。 (部活動の推進) | 76 | 82 | 78 |
| | (4) 生徒ひとりひとりのために研鑽に励む。(教師) | | | | |
| | 15 | 教育専門職としての自覚のもと、絶えず自己研修に努めている。 | 76 | 88 | 88 |
| | 16 | 学校安全管理と環境美化に努め、美しい学校づくりに努めている。 | 82 | 88 | 86 |
| 17 | 地域から信頼される開かれた学校づくりに努めている。 | 76 | 80 | 82 | |
| 職員組織 | 18 | 校務分掌は適材適所の配置のもと、機能的に運営できている。 | 82 | 82 | 84 |
| | 19 | 職員間で意思疎通を図り、十分な連携がとられている。 | 86 | 92 | 94 |
| | 20 | 日々の教育活動における問題や悩み等について、気軽に相談できる雰囲気である。 | 86 | 94 | 90 |



観点8「教育活動全般を通して、実践力の伴う道徳教育を展開している。(規範意識の育成)」については、昨年と同程度の数値がみられるものの依然として全20項目の中でも低い状況です。令和元年度より道徳は「特別の教科道徳」となり、新たに指導計画や指導内容を形作り実践してきたところです。

現在の教職員には、学習指導要領の改訂により指導内容や授業の在り方の見直しが求められ、働き方改革関連法により労働時間や業務内容の改善が求められ、教育情報化推進計画によりICT活用技能の熟練、タブレット端末の活用が求められ、体験的な学習・問題解決的学習の工夫、その他様々な課題が提示されています。その中で本校職員は、自己の取り組みを謙虚に反省しつつ、引き続きこれらの課題に真摯に向き合っていきたいと思えます。

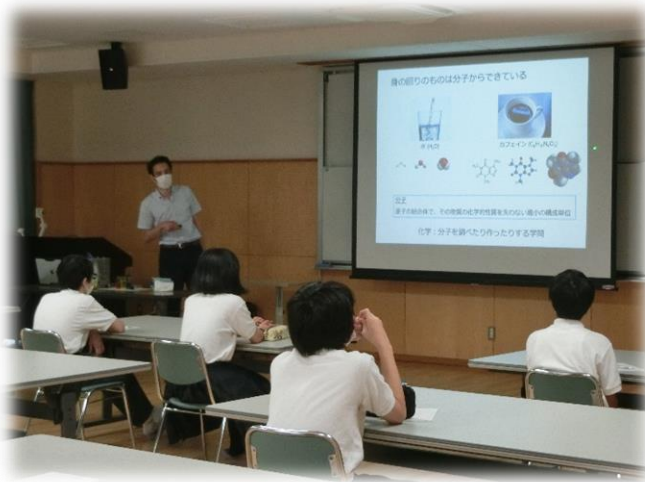
取り組みの概要と評価のまとめ

新しい中学校学習指導要領は令和3年度より全面実施となりました。この改訂の基本的な考え方の中に「これまでの我が国の学校教育の実践や蓄積を活かし、子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成」とあります。これを受けて、本校では知識理解と技能習得の質を高め社会の中で生きる力を育んでいく学習活動を展開していくことを共通理解し、生駒北小中学校教育目標を、平成30年度から「自ら考え行動し、未来を切り開く児童生徒の育成」と改訂し進めてきました。



確かな学力育成に向けて第一に挙げられるのは、一人一人に対するきめ細かな指導を目指しての少人数指導体制です。令和2年度までは、3年時に少人数学級編成を行っていましたが、児童生徒の少子化が進み1学級30人に満たなくなっています。そこで、2,3年生で少人数教科指

導の取り組みを実施しました。学習者からは、「先生ひとりに対する生徒の割合が減ったので、わからないところをしっかりと教えてもらえるので、良かった。」「人数が少ないので、どの場所の席になっても黒板が見やすい。」「授業中に発言しやすくなった。」などの声が上がっています。



第二に、国のGIGAスクール構想に基づきタブレット端末が小学校1年生から中学校3年生までの児童生徒に一人1台貸与され、これまで以上にICT機器を活用した学習指導の工夫を教科間、指導者間で共有しています。学習者からは「映像があると興味がわく。」「イメージしやすい。」などとあり、意欲喚起や理解促進につながっているようです。また、学習のまとめとしてICT機器を活用しての発表会やプレゼンテーションに取り組み、思考力・判断

力・表現力の育成の一助としています。さらに「学びタイム」として設定した昼の帯取りの時間では、基礎知識習熟のための演習や新聞コラムの視写、図書室での読書活動などを実施し、定期考査前の放課後学習会では、学習者個々の課題解決に向け個別の支援を行うなどの取り組みにより基礎基本の定着を図りました。

次に、小中一貫教育校の特徴ある取り組みの一つとして、小中間の乗り入れ授業を実施しています。これは、主に中学校の各専門教科指導者が小学校に入り込み、授業や授業補助にあたるという形態のものです。小学生が専門の教科指導者から授業を受けられるということだけでなく、指導者側にとっても小学校担任との連携が緊密なものとなり、教科の学習だけでなく生活面においても小中の接続に効果を見込んでいます。特に外国語や数学においては小学生が中学に進学してからの教育効果に期待するところです。また、学校行事については、運動会や文化発表会にとどまらず、入学式・始業式・終業式・避難訓練等多くの行事で小中児童生徒が交流を図る場となることを意図して取り組んでいます。小学生は中学生の活動を見て学び、中学生はそれにふさわしい人格の成長を目指すことで、これらの行事はより効果的に相互に働くものとなってきています。



最後に、生徒の心と体の成長に関わっての支援としては、6月と11月に各学級で二者面談を実施、また県費・市費で配置されたスクールカウンセラーを活用し全員面談（カウンセラーと生徒一人一人との面談）を実施し、生徒一人ひとりの心と体の健康状況の把握に努めました。一昨年度より、二者面談をより充実したものにするため、この期間に特別校時を設定し時間の確保を図りました。また、スクールカウンセラーによる「SOSの出し方授業」も実施され、生徒達が不安や悩みを吐露することができるスキルを高める授業実践も新たな取組として実施されました。